

田島神楽【たしまかぐら】



開催場所

福岡市城南区田島 4-6-29

田島八幡神社

開催日

7月第2土曜日

指定

市町村指定無形民俗文化財

【芸能の概要】

江戸時代には神官が率い、明治維新後には氏子で構成される田島神楽社が、氏神田島八幡宮に奉納してきた神楽。「筑前神楽」あるいは「筑前岩戸神楽」と総称される出雲系の神楽である。全体にゆったりとした時間を感じさせ、とりわけ採り物の舞神楽においては、周辺地域の同一の演目と比較しても静けさがあり、曲芸的要素も少ない。

【芸能の特徴】

田島の歴史が開かれたのは、沿革史の記述から推測し、1330（元徳2）年と考えられ、田島神楽もこの頃から奉納されたといわれる。田島にあった、貴重な水源「薦ヶ淵」の古い主に毎年、人身御供を捧げて平穩を祈っていたが、地域の人々が万年願をたてて以来、旧暦の6月1日、八幡宮に神楽を奉納することで、これに替えたのが始まりと伝わる。

神楽奉納以来、五穀豊穣を祈り田植えが終わると舞われてきた。江戸時代まで神官によって伝えられたが、明治頃から氏子による田島神楽社の手で奉納されたようである。また、第二次大戦中も絶えることなく開催されていた。福岡市無形民俗文化財に指定されることが決まり、平成9年、田島神楽保存会が発足した。現在20名の会員により運営される。

【使用する祭具・道具など】

特に、笛は各個人が篠竹で作ったものを使う。管理も各個人に任される。

・アクセス

西鉄バス「田島」バス停より徒歩5分

・周辺の観光

福岡東洋陶磁美術館、油山市民の森、友泉亭公園、樋井川リバーサイド
提灯とぼし（7月）
夏まつり城南（7月）
城南市民音楽祭（10月）

・近くの特産品

博多人形、辛子明太子、もつ鍋、博多ラーメン

